

私たち、たんぽぽの会

— WE ARE DANDELIONS CLUB —

志津川地区の婦人会たんぽぽの会。在籍期間が長い人も短い人もいる。それぞれがお互いを補い合う存在。志津川への思いが形となって明日へ、未来へと続いていく。

1



4



5



6

4_ 桜餅に使った葉は、集会所で採れたもの／5_ 参加者に好評な桜餅／6_ あんこも一つひとつ計量しながら作る

私たちができること

「私たちが作ったものを喜んでくれるとやっぱ嬉しいですね」そう話すのはたんぽぽの会の会長柳澤きく子さん。

「たんぽぽの会は、普段からさまざまな活動をしています。最近思うように活動ができないことがありましたが、今年新しい人が入ってきたので

です」

桜が散り、新緑が鮮やかに彩る4月末は、手作りの桜餅を参加者に振る舞った。桜餅の葉は集会所内の桜から採れたものを使っている。「先輩たちに頼りっぱなしです。ずっと続けているからよく分かっていらつしゃるので」と柳澤さんは笑う。「あんまり甘いのはどうか」「少しでも食べ応えがあったほうがいい。フルーツを入れて見栄えよくしたいね」と、たんぽぽの会の皆さんは和気あいあいとした雰囲気の中で、手慣れた様子で桜餅を成形する。

4月のサロンに参加し、手



2



3

1_ たんぽぽの会の皆さん。お揃いの帽子を被って活動をする／2_ ひとつずつパックに詰めていく／3_ お揃いの帽子。たんぽぽとイニシャルの刺繍が施されている

で二層活動に力が入ります」と笑顔で話す。

志津川公民館で月に1回開かれる木曜サロン（主催：社会福祉協議会）の活動後、参加者が食べるお弁当やおやつ作りはたんぽぽの会の活動のひとつ。「手作りのお弁当とおやつを月ごとに交互で出しています。それぞれ季節に合ったものを出すように心掛けています。作るメンバーは当番制

作りの桜餅を食べた参加者は「昔はたんぽぽの会で作っていた立場だったので、昔のことを思い出します。今でもこうして皆さんに作ってもらえてありがたいですね」と話す。「ベテランさんから言われるとドキドキするけれど、おいしいと言われることがありがたいです」と頬が緩む。

ここ数年、コロナ禍の影響で活動がほとんどできなくなっていた。「長い間、メンバーと会えなかったのが、最近皆さんの顔が見れることが嬉しい。昔はしぐれや醤油餅を作ったこともありましたが、今できることを無理なくやれ

今と未来

家では母。
ここでは
後輩。



「たらいいと思っっています」と柳澤さんは話す。
 長年、たんぼぼの会の活動に貢献してきた大嶋茂子さんは「久しぶりに作ると楽しかった。みんなで作ることがいいんです。これまでどうだったとか言いながらも、手は動かしてどんどん作っていきます」と話す。
 ムードメーカーでみんなが和む雰囲気をつくる武智順子さんは「足手まといにならないように頑張りました。以前よく活動していた頃を思い出しました。食べ物を扱うので大変ですが、おいしかったと言ってくれることにやりがいを感じます」と話します。
 会計兼副会長の松末千鶴さんは「皆さんとお会いできたことが嬉しかったです。始めは、

地元の人と関わりがありませんでしたが先輩たちから婦人会に誘ってもらって繋がりができました。家では母親だけれど、ここでは後輩です。先輩の皆さんの知恵を教えてもらえるのが魅力だと思います。世代が違う分、教え合いができることもたんぼぼの会の魅力。世代が違っても仲が良い。サロン後のトイレ掃除では、手を動かしながらも世間話は止まらない。
 ゴキブリ団子作りは、「志津川からゴキブリがいなくなるように」と、たんぼぼの会の活動でも力が入る。
 好物の小麦粉や砂糖、玉ねぎに殺虫成分のあるホウ酸を混ぜる。一度罠に引っ掛かると二度と寄せつけない優れモノ。毎年6月に作り、集会所

7



8

1_活動後のトイレ掃除は念入りに/2_協力してゴキブリ団子を作る/3~6、9~12_ゴキブリ団子作り/7_左から武智順子さん、大嶋茂子さん、柳澤さく子さん、松末千鶴さん/8_40個以上の玉ねぎをミキサーにかける

に置いたり、地元配布したりする。材料の玉ねぎは40個以上使う。粘土の高い団子の生地を混ぜるときは、全身を使ってこねる。
 「団子を作ると地元の人たちに喜ばれるんです。自分も使っているけれど、効果は抜群です。地元の人も毎年楽しみにしてくれています」と話す柳澤さん。出来上がった団子を集会所に設置する所まで、たんぼぼの会が行う。「去年はどこに置いたかなど考えながら置いていきます。いろいろな場所があるので忘れがちです」と集会所内を歩き回る。
 会員は現在25人。仲間とたんぼぼの会の今後の活動

やこれからの志津川について話すこともある。「若い人に入ってもらったことが、たんぼぼの会の希望の光です。特に防災の面で期待しています。何かあった時に高齢者だけでは動けないことがあります。若い人の情報収集力や人との繋がりを活かしてもらえたら嬉しいですね。ただ、若い人たちは自分の生活があるので、できる限り私たちがやっつけて、若い人が参加しやすい会になればと思っています」と柳澤さんは微笑む。
 これからもたんぼぼの会は、野に咲いたたんぼぼの花のように明日に向かって真っ直ぐ進む。



2

1



12



11



10



9



6



5



4



3